

# 小学校外国語活動嫌いを誘発させる要因

## —学習者の質的データと量的データの分析を中心に—

和歌山県／和歌山大学教育学部附属小学校 教諭 辻 伸幸

### 概要

児童たちの外国語活動嫌いに焦点を当てた研究は数が少なく、児童の個性や学習環境を熟知している小学校教員の視点から客観的になされたものは、ほとんどない。本研究では、その小学校教員が外国語活動嫌いを誘発させる要因を量的研究と質的研究の両アプローチで明らかにしようとした。

量的研究では、外国語活動嫌いとは対極である好意的因子を探るための因子分析を行い第1因子「英語運用力向上希望因子」をはじめとする5つの因子を特定することができた。質的研究では、量的研究のデータから外国語活動嫌いの児童と嫌いでも好きでもない児童を特定し、個別にインタビュー調査を行った。その中で、外国語活動のさまざまな活動で嫌いな場面や好きな場面を特定し理由も聞き出すことができた。外国語活動嫌いでは、英語のスキル面、指導方法、指導内容の順位で嫌いにさせる要因を特定した。また、外国語活動嫌いの児童たちは、授業中ほめられる経験が少ないことも判明した。

### 1 はじめに

2011年度から小学校学習指導要領改訂による新教育課程が進行中である。外国語活動は、すべての高学年（5、6年生）児童が必修しなければならない領域となっている。

1992年に、小学校における外国語学習に関する研究開発学校が初めて大阪で指定された。1996年には、各県1校ずつに広がり、2003年に英語教育特区が認定された。文科省の「小学校における英語活動

等国際理解活動の推進」事業による500校を超える拠点校が2007年に誕生し、同年度、97.1%の公立小学校が外国語活動を実施するに至った。

このように外国語活動を教育課程に導入する学校数が劇的に増加し、実施されてきた指導の中で、多数の児童が小学校段階から英語嫌いになっているという結果が文科省の2009年9月の調査により明らかになってきた（外国語活動における教材の効果的な活用及び評価の在り方等に関する実践研究事業に係る実践研究校児童向け意識調査結果）。具体的に、公立小学校423校の5年生22,750人のうち7.8%に当たる1,767人、6年生22,589人のうち10.3%に当たる2,328人の児童が、外国語活動の授業を嫌いと回答している。調査されたのは、地域の外国語活動の拠点校として、予算もつき教員研修や教材など指導体制が比較的恵まれている学校である。それらの学校においてさえ、6年生になると10人に1人が外国語活動嫌いになっているのである。これは、小学校に外国語教育を導入する上で危機的状況と推察することができる。

本研究では、外国語活動嫌いを誘発させる要因を明らかにするため、逆の視点で、どのような要因が外国語活動を好意的にとらえることができるのかを量的データの分析から考えてみる。次に、量的データから外国語活動嫌いの児童を特定し、個別にインタビューを行い質的データを取り、外国語活動嫌いを誘発する要因を明らかにする。また、本研究では外国語活動を直接指導し、他の教科も指導し担任業務を行っている小学校教師の視点も加味して考察を加えていく。

## 2 先行研究

今までに、英語嫌いを誘発させる要因に関する研究は、成人を対象とするものがほとんどであった。さらに、日本の小学校で外国語教育が始まつて間もないこと也有り、その要因に関する研究は、数が極めて少ないので現状である。

松宮（2005）は、外国語学習不安を探ることを目的に、小学校英語活動にかかる担任54名および児童374名を対象に、自由記述による質問紙調査を行っている。その結果、児童は、担任の予想以上に人前での発話に不安を覚えることが明らかになっている。また、松宮（2006）は、児童544名に質問紙調査を実施し、不安を感じている児童が種々の活動に対して興味・共感度が低いことを明らかにしている。

國本（2005）は、4年生児童43名を対象に、性別・英語学習好きという独立変数がコミュニケーション意欲・自己評価・不安という従属変数に及ぼす影響を検証し、英語学習好きの度合いが高いとコミュニケーション意欲と自己評価が高くなるということを示した。國本（2006）は、4年生児童185名、5年生児童143名に6件法によるアンケート調査を実施し、英語学習動機因子について研究している。この研究では、小学校4・5年生児童の英語学習動機づけは、中学生、高校生、大学生より単純であり、英語が好きな気持ちは英語学習意欲を高めるが、場合によってはネガティブ感に結びつく可能性を示唆している。

## 3 調査の内容

### 3.1 調査参加者

本調査における量的データを取ったのは、和歌山県内の公立小学校A校に在籍する5年生107名、6年生102名である。質的データを取るためにインタビューを実施したのは、量的データを取るときの3つ質問項目である「英語が好きだ」、「学校の英語の授業は好きだ」、「学校の英語の授業は楽しい」で、どちらでもないと回答した19名（以下、中位層と呼ぶ）と否定的に回答している36名（以下、低位層と呼ぶ）の総計55名である。

調査対象者は、1年生から外国語活動の授業を受けてきている。3・4年生までは、年間15時間程度、5・6年生では、30時間程度の外国語活動の授業を受けてきている。授業形態は、ネイティブスピーカー講師と担任によるチームティーチングである。低学年は、英語を使った歌、リズム遊び、簡単なあいさつなどを経験し、中学年では、TPRや簡単なゲームを中心とする活動を経験してきている。高学年では、「英語ノート」に従って、指導を受けてきている。

「はじめに」で取り上げた文科省の同じ調査では、5年生127人のうち7.1%に当たる9人、6年生104人のうち6.7%に当たる7人の児童が、外国語活動の授業を嫌いと回答している。

### 3.2 調査実施時期と調査方法

量的データを得るための調査の実施時期は、2010年の10月に、質的データ用の調査は、2011年1月から3月に行った。

量的データは、外国語や外国語活動嫌いの児童の層と今後、そのような児童になる可能性のある外国語や外国語活動の授業が好きでも嫌いでもない層を特定するための項目を入れた。

本調査では、教育現場の教師が、しかも、児童たちに顔なじみの教師が説明を行いながらデータを集めた。量的データはインタビューではなく質問紙調査法で行うため、児童の本心を表しやすくするため、肯定的な表現で尋ねる47項目を設定した。したがって、量的データでは、外国語や外国語の授業を好意的にとらえる因子を明らかにしようとした。また、形式は質問紙調査法であるが、パソコンを使って回答させた。データは表2のリッカート5件法で点数化して主成分分析を行い因子数を決定した。その後、因子分析を行い因子を特定した。

質的データ収集のため、3.1で述べた対象者に、個別に時間を取ってインタビュー形式で聞き取り調査を実施した。インタビュー項目（資料2）は、詳細な外国語活動嫌いを誘発させていると考えられる項目を中心に、1人、15分程度かけて筆者が実施した。質的データでは、児童の本心が出やすいようにするために、穏やかな雰囲気を作り、くつろいで回答できるように環境を整えた。

### 3.3 質問項目

表1は、量的データを得るために質問した47項目（資料1）を種類分けしたものである。すべての項目において、5件法で評定を求めた。評定は、表2に示す得点を設定した。

質的データを得るために、外国語活動での嫌いな活動、好きな活動、活動の種類ごとの好き嫌い、授業への要望など11項目（資料2）を理由も聞けるように組み入れた。

■表1：質問項目の種類分け

質問項目の種類	項目数
英語に対する好意度	1
英語の授業との関連	8
英語の運用力	17
外国人とのコミュニケーション	3
他の外国語学習	1
外国への渡航希望	1
他教科との関連	16

■表2：質問紙のリッカート5件法

そう思う	5点
どちらかと言えばそう思う	4点
どちらでもない	3点
どちらかと言えばそう思わない	2点
そう思わない	1点

## 4 結果と考察

### 4.1 外国語活動を好意的にとらえる因子分析

表3は、各質問項目のリッカート5件法による平均値と標準偏差である。

47の項目を用いて主因子分析を行った。Kaiserの正規化を伴うバリマックス法の回転法を用いて主因子法で因子を特定した。その結果、表4に示すと

■表3:各質問项目的平均値と標準偏差(中心値は、2.5)

項目	平均値	標準偏差
英語は好きだ。	3.84	1.280
学校の英語の授業は好きだ。	3.51	1.152
学校の英語の授業は楽しい。	3.62	1.214
学校の英語の授業は大切だ。	4.04	1.140

項目	平均値	標準偏差
学校の英語の授業は簡単だ。	3.85	1.210
英語を聞くことは楽しい。	3.54	1.298
英語を聞くことは大切だ。	4.15	1.169
英語を聞くことは簡単だ。	3.19	1.351
英語を話すことは楽しい。	3.47	1.323
英語を話すことは大切だ。	4.17	1.119
英語を話すことは簡単だ。	2.81	1.340
英語を読むことは楽しい。	3.28	1.361
英語を読むことは大切だ。	4.11	1.188
英語を読むことは簡単だ。	2.87	1.378
アルファベットを書くことは楽しい。	3.62	1.340
アルファベットを書くことは大切だ。	4.18	1.141
アルファベットを書くことはやってみたい。	3.44	1.461
アルファベットを書くことは簡単だ。	4.08	1.286
英語を聞けるようになりたい。	4.37	1.080
英語を話せるようになりたい。	4.45	1.034
英語を読めるようになりたい。	4.48	1.007
英語を書けるようになりたい。	4.45	1.038
外国人と英語で話すのは好きだ。	3.15	1.427
外国人と英語で話すのは楽しい。	3.26	1.362
外国の友達をつくりたい。	3.79	1.397
英語以外の外国語も勉強したい。	3.67	1.443
国語科は好きだ。	3.53	1.312
社会科は好きだ。	3.62	1.346
理科は好きだ。	3.69	1.427
算数科は好きだ。	3.67	1.375
音楽科は好きだ。	4.10	1.240
体育科は好きだ。	4.41	1.081
図工科は好きだ。	4.14	1.168
家庭科は好きだ。	4.11	1.179
去年の英語の授業と比べて楽しい。	3.25	1.444
いつの日か、外国に行ってみたい。	4.27	1.233
英語の授業は、将来に役立つと思う。	4.36	1.049
英語の授業は、もっと多い方がよい。	3.01	1.449
国語科の授業は好きだ。	3.46	1.341
社会科の授業は好きだ。	3.54	1.379
理科の授業は好きだ。	3.66	1.444
算数科の授業は好きだ。	3.54	1.406
音楽科の授業は好きだ。	4.10	1.227
体育科の授業は好きだ。	4.34	1.165
図工科の授業は好きだ。	4.04	1.270
家庭科の授業は好きだ。	4.04	1.201
英語の成績も欲しい。	3.60	1.510

■表4：外国語活動を好意的にとらえる因子分析結果

	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子	共通性
英語を読めるようになりたい。	0.913	0.048	0.020	0.102	0.170	0.875
英語を書けるようになりたい。	0.901	0.054	0.041	0.166	0.146	0.866
英語を話せるようになりたい。	0.873	0.096	0.061	0.144	0.110	0.807
英語を聞けるようになりたい。	0.811	0.105	0.107	0.123	0.098	0.706
英語を話すことは大切だ。	0.735	0.323	0.189	0.031	0.010	0.682
英語を聞くことは大切だ。	0.688	0.324	0.205	0.053	0.136	0.642
英語を読むことは大切だ。	0.686	0.283	0.175	0.030	-0.029	0.583
英語の授業は、将来に役立つと思う。	0.606	0.258	0.116	0.168	0.118	0.489
アルファベットを書くことは大切だ。	0.534	0.303	0.128	0.122	0.000	0.408
外国の友達をつくりたい。	0.512	0.335	0.241	0.158	0.003	0.458
学校の英語の授業は好きだ。	0.185	0.737	0.042	0.145	0.169	0.629
学校の英語の授業は楽しい。	0.159	0.734	-0.003	0.124	0.259	0.647
英語の授業は、もっと多い方がよい。	0.291	0.674	0.167	0.160	0.185	0.627
去年の英語の授業と比べて楽しい。	0.156	0.610	-0.005	0.142	0.241	0.475
英語は好きだ。	0.398	0.547	0.374	0.075	0.035	0.605
学校の英語の授業は大切だ。	0.513	0.521	0.085	0.064	0.044	0.548
英語を話すことは楽しい。	0.480	0.520	0.478	0.112	0.002	0.742
外国人の人と英語で話すのは好きだ。	0.372	0.505	0.437	0.166	-0.009	0.612
外国人の人と英語で話すのは楽しい。	0.371	0.453	0.408	0.208	-0.015	0.554
英語を話すことは簡単だ。	0.123	0.016	0.800	-0.024	-0.010	0.691
英語を読むことは簡単だ。	0.024	0.194	0.800	-0.066	0.087	0.657
英語を聞くことは簡単だ。	0.086	-0.011	0.656	0.039	0.043	0.441
学校の英語の授業は簡単だ。	0.099	0.072	0.580	-0.175	0.022	0.382
英語を読むことは楽しい。	0.389	0.342	0.549	0.035	0.065	0.576
アルファベットを書くことは簡単だ。	0.125	0.129	0.513	0.050	-0.074	0.304
家庭科は好きだ。	0.075	0.082	-0.009	0.741	0.029	0.563
家庭科の授業は好きだ。	0.080	0.061	-0.045	0.733	0.106	0.561
図工科の授業は好きだ。	0.102	0.254	-0.133	0.597	0.146	0.470
図工科は好きだ。	0.100	0.234	-0.126	0.553	0.031	0.388
国語科の授業は好きだ。	0.179	0.070	0.288	0.496	0.292	0.451
音楽科の授業は好きだ。	0.276	0.108	0.031	0.490	0.332	0.439
理科の授業は好きだ。	-0.009	0.187	-0.090	0.210	0.785	0.703
理科は好きだ。	0.002	0.154	-0.082	0.187	0.715	0.577
算数科は好きだ。	0.067	0.101	0.105	0.047	0.605	0.394
算数科の授業は好きだ。	0.154	0.170	0.164	0.242	0.555	0.446
負荷量平方和	8.091	4.958	4.820	3.480	2.699	
寄与率	17.215	10.548	10.254	7.405	5.742	
累積寄与率	17.215	27.763	38.018	45.422	51.164	

おり説明可能な5因子が抽出された。

第1因子は、英語のスキル面ができるようになりたいという感情やスキル面を重要と考えている。また、将来での有用性も入っている。これらの面から「英語運用力向上希望因子」と命名する。

第2因子は、学校の英語の授業に対する肯定的な感情因子と考えられるため「外国語活動の授業満足因子」と命名する。

第3因子は、英語のスキル面への自信に関連する感情因子であり、「英語運用力自信因子」と命名する。

第4因子は、小学校で受けている家庭科、図工科、音楽科、国語科の授業に関する好意感に関連していることから「言語・技能系教科好意因子」と名づける。

第5因子は、理科と算数科の授業に関する好意感に関連していることから「理数系教科好意因子」と名づける。

以上、因子分析から外国語活動を好意的にとらえる因子を5つ特定することができた。これら5因子から推察される外国語活動嫌いを誘発する要因について考察を加えたい。量的データから科学的に断言できることではないが、小学校の担任として外国語活動を15年以上指導し、児童の観察を続けてきた経験に基づく知見も加味しての考察である。

外国語活動の目標は、英語のスキル面習得が目的ではなく、体験的な活動を通してコミュニケーション能力の素地を養うことである。この目標は、指導者側がしっかりと理解しなければならないことである。一方、児童の側からすると、コミュニケーション能力の素地を伸ばすために外国語活動に取り組んでいると感じてはいない。やはり、「発音できること」、「聞き取れること」、「表現を覚えること」などのスキル面を強く意識している。

だからこそ、外国語活動を好意的にとらえる第1因子は、英語のスキル面（英語運用力）を向上させたいと希望する心情がくると考えられる。反対に、外国語活動が嫌いな児童は、その希望が弱いと想定される。

第2因子は、今、受けている授業に対して満足感が高いと思える心情である。反対に、外国語活動嫌いの児童は、授業への満足度が低いと推察できよう。

慣れ親しんだ英語の表現をある程度、自信を持って使うことができると感じている因子が第3因子で

ある。これも、対極から考えると、外国語活動嫌いを誘発する第3の因子は、授業で触れてきた英語の表現を自信を持って使うことができないと感じることであろう。

第4、5因子は、他教科から関連している因子であり、言語・技能系教科と理数系教科が好きな児童は、外国語活動の授業も好意的にとらえることができると言える。反対に、外国語活動嫌いの児童は、言語・技能系教科と理数系教科に否定的な心情を抱いている可能性がある。

## 4.2 外国語活動嫌いを誘発させる要因に関する質的研究

抽出児童によるインタビュー項目（資料2）から得られたデータを項目ごとに整理し考察を加える。

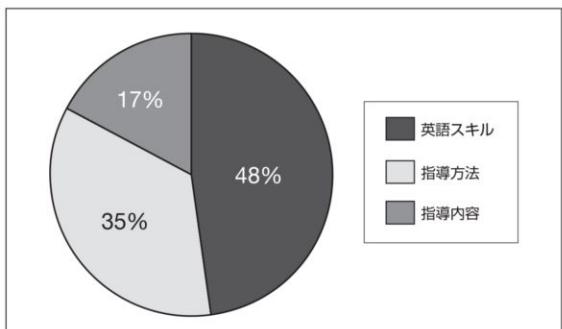
### 【項目1：外国語活動で嫌いと感じる場面とその理由】

本研究の核心項目である。低位層と中位層の児童約半数が外国語活動での嫌いな場面として英語のスキル面を挙げている。英語のスキル面で、具体的には、リスニング力、表現の理解力や定着力の不足、発音するときの困難さがある。スキル面の要因を挙げる理由として、意味がわからないからとする児童が多い。高学年の発達段階を考えれば、意味がわからないことは、心理的に嫌いに結びつくと考えられる。

次に多かったのが、指導方法である。その中でも、挙手もしていないのに当てられて英語で答えたり、1人で発表したりする場面を挙げる児童が多かった。その理由では、恥ずかしさ、英語の不慣れ、間違えることへの不安、英語の発音の困難、何を言うのかわからないなどの困惑といった心理的ストレスの高まりから外国語活動嫌いを誘発している。このことは、松宮（2005）が示した児童は人前での発話に不安を覚えるということと合致している。

3つ目が、指導内容である。低位層と中位層の児童たちがどのような内容を嫌うのかは、アルファベット、英語の表現、ゲーム、簡単すぎたり難しそうたりするものであった。アルファベットは、英語ノート2でも取り扱われており、慣れ親しむ程度とはいえた大文字と小文字のすべての文字が出てくる。アルファベットでは、ゲームなどで書かれることが嫌いな理由とされている。ゲームは、児童たちに非常に人気がある活動の1つだが、嫌いと答えた児

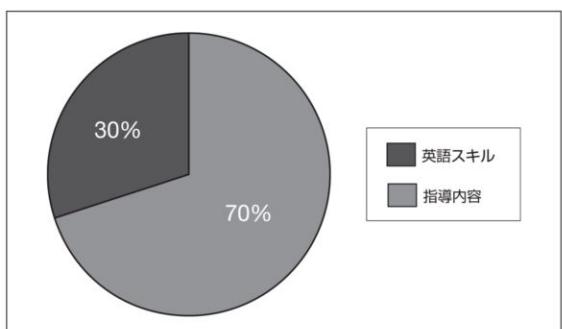
童は勝負で負けることが嫌いだからと理由を述べている。勝ち負けにこだわる児童の特質と言えよう。



▶ 図1：外国語活動嫌いな場面分類 (n = 55)

#### 【項目2：外国語活動で好きと感じる場面とその理由】

低位層と中位層の児童たちが、外国語活動で好きな場面を答えた結果が図2である。嫌いな場面と違って、指導方法の場面がなくなり、指導内容と英語スキルに関する場面だけとなった。低位層と中位層の児童たちの7割が好きな場面として指導内容を挙げている。指導内容では圧倒的にゲームを挙げている。



▶ 図2：外国語活動好きな場面分類 (n = 55)

小学生高学年という発達段階から考えて、低位層と中位層の児童もゲームを非常に好意的にとらえることが明らかになった。ゲーム本来が持つ特性である楽しさ、面白さ、盛り上がり、勝敗、友達との協力、雰囲気、自由度が高いなどを理由に挙げている。また、英語は苦手と自覚しているが楽しくできるので好きであると明確に答える者もいた。

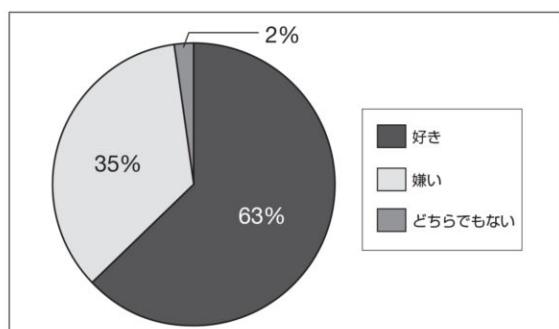
ゲームの特性以外の理由では、ゲームで勉強できる良さ、英語が覚えやすいと感じる意識があった。さらに、ゲーム以外では、クイズも一緒に加えた児童がいただけであった。

3割の低位層と中位層の児童たちが英語スキル面で楽しく好きだと回答している。具体的には、英語の意味が理解できるとき、英語で質問できるとき、英語で発表できるとき、文の意味を考えるとき、英語を覚えたとき、英語が通じるときなどを挙げている。

外国語活動嫌いを誘発する要因を探るためには、対極の要因である外国語活動好きを誘発する要因を明らかにすることも重要であることが推察された。

#### 【項目3：歌の活動の好き嫌いとその理由】

低位層と中位層の児童たちが、授業で行う歌の活動に対して好きか嫌いかを答えた結果が図3である。



▶ 図3：歌の活動の好き嫌い (n = 55)

最初に、歌の活動が嫌いと回答した理由を分類すると、4つに分けることができる。1つ目は、歌の意味がわかりにくく感じることである。高学年では、意味がわからないことをすることに対して強い不安やストレスを引き起こすことは項目1から明らかである。歌においても、歌詞の意味がわからなければ、嫌いだと感じることは当然であろう。

2つ目は、発音の難しさからくる歌いにくさや難しさを訴えている。音楽科では、通常、正確に歌唱しなければならないことから児童たちは英語の歌であっても、そうするように心がけるのかもしれない。また意味や発音については、適切な指導が配慮されなければならない。さらには、高学年の児童たちが興味を引く歌であるかも大きく関係してくるだろう。

3つ目は、もともと歌が苦手で好きでないと感じていることである。このような児童のためにも歌の活動を連続してたくさん組み込んだり、時間を長く取ったりしないようにする指導者側の工夫が必要である。

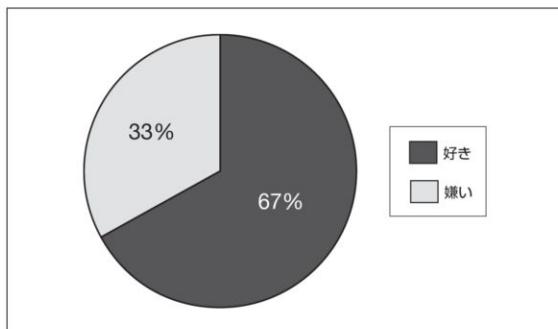
4つ目は、みんながまじめに歌わなかったり、はしゃいだりして歌いづらいなどクラスルームマネジ

メントの問題を述べた者がいた。外国語活動では、活動中心の授業形態であり、指導者のクラスルームマネジメント力が大きく影響する。また、英語を使った指導のため、児童への注意や指示が日本語で行いにくいためクラスルームマネジメント上の問題が出ていることも考えられる。簡単な英語の表現を使って児童を注意できる指導をつけたり、指示をわかりやすくする工夫をしたりすることが有効と考えられる。

次に、歌の活動が好きと回答した理由を分類する。一番多いのが、歌の特性からきている。例えば、リズムやテンポがあって英語で歌いやすかったり、楽しく取り組めたりする点である。また、独唱は取り入れないので、合唱となり英語を間違っても気にしないという心理的ストレスの軽減がある。次に続くのが、歌を通して英語を覚えることができることがある。また、ここでも歌詞の意味がわかって歌うのであれば好きと回答する者もいる。

#### 【項目4：チャンツの活動の好き嫌いとその理由】

低位層と中位層の児童たちが、授業で行うチャンツの活動に対して好きか嫌いかを答えた結果が図4である。



▶ 図4：チャンツの活動の好き嫌い (n = 55)

嫌いと回答した理由として、一番多く挙げられたのがチャンツのリズムに乗って言いにくいということであった。この言いにくさには、チャンツの速さ、表現の長さ、英語特有の発音、表現の意味がわからないなど複数の要因がかかわっている。

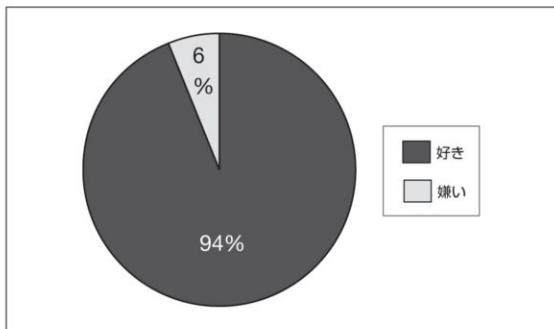
チャンツは、コミュニケーション活動で使う英語の表現に慣れ親しむ活動として必要不可欠なものである。児童たちが、嫌いにならないような指導上の工夫がいる。例えば、児童の実態に合った速さから徐々に上げていくこと、チャンツを行う表現の意味

を前もって理解させておくこと、指導者からの励ましや賞賛、適切な表現の選択などが考えられる。

好きと回答した理由として、半数以上の者が挙げたのがリズムの利点である。単調に指導者の発声する表現を繰り返すよりも、チャンツでさまざまなリズムの速さや種類、声の高さの高低で変化がつけやすく楽しい活動となる。そのため低位層と中位層の児童にとっては、約7割の者が好きと回答したと考えられる。また、1人での発表ではなく、全体でするため発音が違っていても目立つことがないので心理的不安は低い。実際、みんなでするところが良いと回答する者もいた。その他の理由として、「まねをするだけなので簡単」、「先生が言った後は言いやすい」、「会話している感じで楽しい」、「英語を覚えやすい」といったものがあった。

#### 【項目5：ゲームの好き嫌いとその理由】

低位層と中位層の児童たちが、授業で行うゲームに対して好きか嫌いかを答えた結果が図5である。好きと回答する児童が94%という高い値を示している。嫌いと回答した児童の理由は、「負けると嫌」、「楽しくないゲームが多い」、「ゲームで使う表現の発音がわからない」などであった。



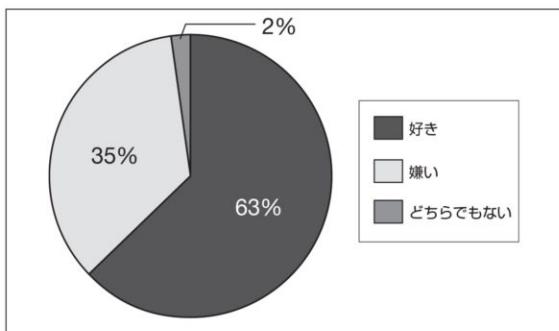
▶ 図5：ゲームの好き嫌い (n = 55)

項目2すでに述べたように、ゲームの特性による要因などから高学年児童にとっては理想的な活動といえることが言える。

#### 【項目6：クイズの好き嫌いとその理由】

低位層と中位層の児童たちが、授業で行うクイズに対して好きか嫌いかを答えた結果が図6である。

指導者からするとクイズもゲームと同じく低位層と中位層の児童たちが楽しく取り組める活動の一つであると考えてしまいがちだが、実際は同じではな



▶ 図 6：クイズの好き嫌い (n = 55)

い。どうしてクイズが嫌いなのか、その理由を明確にする必要がある。

嫌いな理由の一番は、英語のリスニングとスピーキングのスキルを挙げている。具体的には、「クイズで使われている英語がわからない」、「答えるときの英語がわからない」など意味を理解し、英語で答えるときの困難がある。その他の理由では、「クイズが嫌い」、「クイズが簡単すぎる」、「はずれると嫌い」、「答えるのが面倒」などがあった。

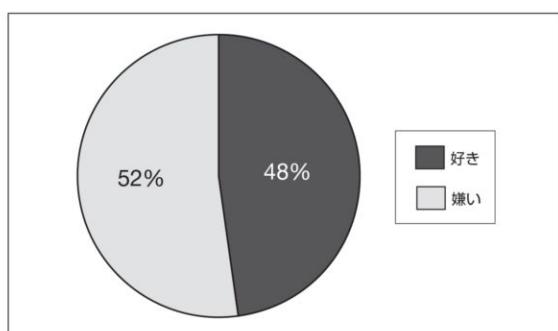
クイズを扱うにも指導の工夫不足が今回の調査から浮き彫りになった。本結果から、以下のように改善する必要がある。

- クイズに使う表現に十分慣れ親しませておく
- クイズに使う表現の意味を児童が理解しやすくするため、画像や音声、実物などを使用する。
- ヒントも用意する。
- クイズの配列を易しいものから難しいものへとする。
- 4人から3人の小グループで協同的に考えさせる。
- ICT機器を活用する。
- 答えるときは、日本語使用も場合によって許可していく。
- 英語得意とする児童ばかりが活躍できないクイズを組み入れる。

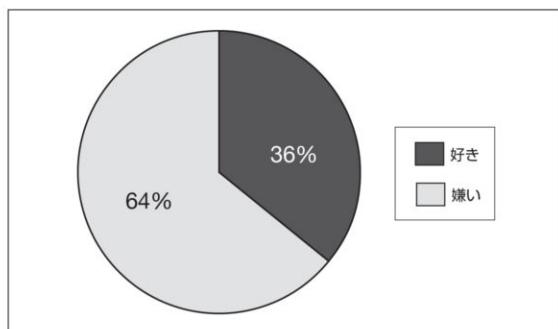
クイズが好きと回答した理由では、クイズそのものが持つ特性を挙げる児童多かった。例えば、わかるときの喜び、考える楽しさ、臨場感や興奮感、優越感などであった。基本的には児童たちはクイズが大好きである。日常のテレビ番組を見ていてもクイズ番組は人気があり、児童たちの生活に根づいていると考えられる。英語を使ったクイズはゲームと共に外国語活動では適したものである。

#### 【項目7：コミュニケーション活動の好き嫌いとその理由】

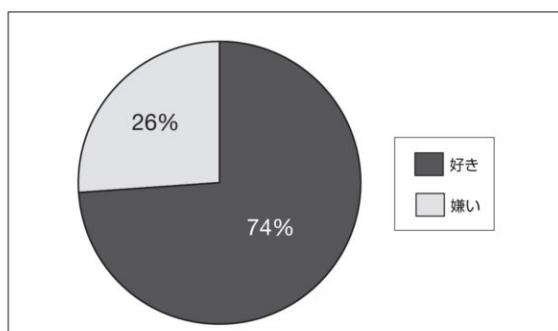
低位層と中位層の児童たちが、授業で行うコミュニケーション活動に対して好きか嫌いかを答えた結果が図7である。今までの項目と違って嫌いと回答する児童が多いことがわかる。さらに、本項目は他の項目と違い低位層と中位層との間でも大きな差が確認された。その差を示したものが図8と図9である。つまり、低位層の児童の方が中位層の児童に比べてコミュニケーション活動を嫌いと感じている。英語嫌いを誘発させる強い要因として考えることができる。



▶ 図 7：コミュニケーション活動の好き嫌い (n = 55)



▶ 図 8：コミュニケーション活動の好き嫌いー低位層 (n = 36)



▶ 図 9：コミュニケーション活動の好き嫌いー中位層 (n = 19)

低位層の児童は何を理由にコミュニケーション活動を嫌うのかを整理したのが表5である。低位層の児童たちにとってコミュニケーション活動は困難な課題であることが明らかになった。歌やチャンツ、ゲームやクイズなどと違って、双方向のコミュニケーションを慣れない英語という外国語を通して行わなければならないという障壁がある。今までのインタビューの項目の考察をする中で、コミュニケーション活動は、児童たちが避けたいとする英語のスキル面が大きくかかわってくる活動である。さらには、コミュニケーション活動場面での恥ずかしさや緊張といった心理的ストレスも高くなる。しかも、コミュニケーション活動の場面で英語でコミュニケーションをとる必然性がなければ、児童たちには、日本語ですれば済むことを、なぜ英語でしなければならないのかという疑念が浮かぶのも無理がない。

■表5：コミュニケーション活動の嫌いな理由ー低位層（n = 36）

英語を話すのが不安・苦手・下手
英語を忘れる・覚えにくい
英語を間違える
英語が発音しにくい
英語で答えるのが難しい
緊張する
恥ずかしい
英語を言うのが面倒
英語を使う必然性がない

以上のコミュニケーション活動を嫌う児童に対して考えられる配慮事項を以下に示す。

- コミュニケーション活動に使う表現に十分慣れ親しませておく。
- コミュニケーション活動に使う表現の意味を児童が理解しやすくするためのデモンストレーションやスキットを用いる。必要であれば、日本語で意味を確認する。
- 必然性を持たせたコミュニケーション活動を設定する。
- コミュニケーション活動を行う上で、他の学級・学年の児童や教師、地域人材を活用する。
- 日本語を使ったコミュニケーション場面を数多く児童たちに経験させておく。

#### 【項目8：好きになるための授業への要望】

表6は、外国語活動の授業をどのようにすれば、もっと好きになることができるのか具体的な要望を聞いた結果を表している。

■表6：好きになるための外国語活動授業への要望

好きな活動を増やす（ゲーム、クイズ、歌）	20名
英語の意味をわかるようにする	14名
楽しい授業にする	5名
書くことを入れる	3名
突然、指名して発表させることをやめる	1名
1人で言う場面を減らす	1名
すべて英語で行う授業をやめる	1名
他の外国語も取り入れる	1名
コミュニケーション活動を減らす	1名

一番多かった要望は、低・中位層の児童たちが好んでいる活動を増やすことであった。特に、その中でもゲームがほとんどを占めた。これは、項目5の結果からすれば当然とも言える。ウォームアップ、表現への慣れ親しみ、コミュニケーション活動など、それぞれの目的に合致した多様なゲームを組み入れていくことが、外国語活動嫌いの児童を減らす有効な手段であろう。

次に、多かった要望は、使っている英語の表現の意味を理解できるようにすることである。この結果も、項目1に関連しており、当然の要望と考えられる。表現の理解を助けるデモンストレーションや具体物の提示、必要に応じた日本語の使用など指導方法の工夫が考えられる。

さらには、あいまいさへの寛容度（Ambiguity Tolerance）を高めるための事前指導を行うことも有効であるかもしれない。あいまいさへの寛容度が低いと外国語習得上は負の要因となることは知られている（Brown, 2000）。指導例としては、使われている英語の表現のすべてを理解しようとするのではなく、使われている場面の理解や意味の概要を推測しようとする力が大切であることを常に児童に意識づけることが挙げられる。

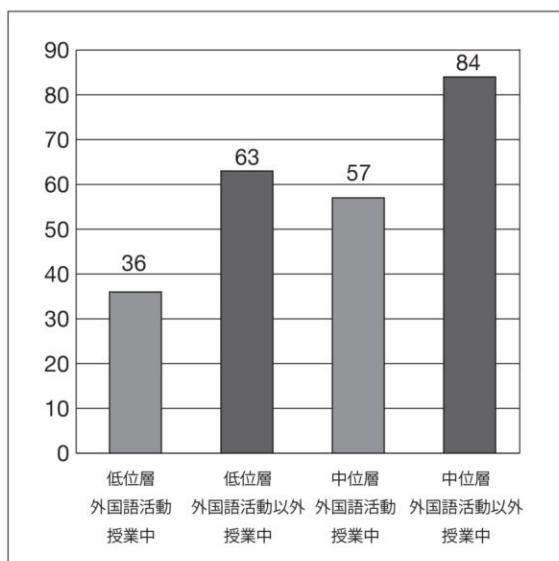
児童たちの要望をすべて受け入れ、安易に迎合する必要はない。しかし、児童の心情に寄り添うことは、授業への満足度を高め、外国語授業嫌いを抑制していくことにつながる。もちろん外国語活動の教育目標から外れることのないように指導者の十分な

配慮が必要である。

#### 【項目9, 10, 11：授業中の賞賛された経験】

図10は、外国語活動の授業中と外国語活動以外の授業中に低位層と中位層の児童たちがほめられる経験をした割合を表している。この結果から、低位層の児童の方が、外国語活動および外国語活動以外の授業において、中位層の児童よりもほめられる経験が少ないとすることがわかった。さらに、低位層の児童間で比較すると、外国語活動授業中にはほめられる経験が外国語活動以外の授業中よりも少ないことが明らかになった。中位層の児童間での比較でも同様に、外国語活動授業中にはほめられる経験が外国語活動以外の授業中よりも少ない。

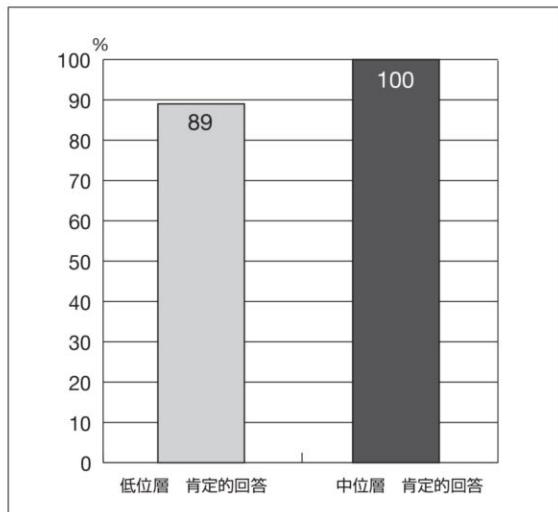
外国語活動の授業中、児童の努力や成果、協力を適切にほめることの重要性は指摘されてきた（岡・金森, 2007; 影浦, 2007; 國方, 2010）。どの児童に対しても一様にほめることを前提にしてきた。しかし、一様にほめるのではなく、低位層の児童ほど賞賛場面でほめるようにしなければならないことが明らかである。



▶ 図10：低位層・中位層児童の授業中賞賛された割合

図11は、低位層と中位層の児童たちがほめられることに関して肯定的にとらえることができている児童の割合を示している。ここでも、低位層と中位層の間には違いが見られる。中位層では、全員がほめられることに関して、「うれしい」、「励みになる」など好意的にとらえているが、低位層は全員ではない。低位層の児童の中には、自尊心を育む機会が少

なく、ほめられることに対して好意的にとらえることができないのかもしれない。この結果からも、低位層の児童には特に、ほめる場面を的確に見つけてほめるようすべきことがわかる。



▶ 図11：授業中の賞賛を好意的に考える低位層・中位層児童の割合

## 5 今後の課題と示唆

小学校外国語活動が必修領域として全公立小学校高学年で導入されている。小学校の一教員として外国語活動の指導にかかる中で、十分な教員研修や教材開発・準備がなされ実施されている状況とは言い難いと強く感じている。このような状況下で、外国語活動を嫌う多くの児童たちがいることは確かである。まずは、児童たちの考え方や感じ方、発達段階に寄り添って、外国語活動嫌いを誘発する要因は何なのかを本研究で明らかにしようしてきた。

量的研究では、外国語活動を好意的にとらえる因子分析を行い5因子を特定し、その対局を外国語活動嫌いを誘発させる要因として推測した。これは、担任教師に対して、否定的な感情を素直に量的データとして出しづらいであろうと考えたからであった。しかし、今後、本研究で出された外国語嫌いを誘発させそうな質問項目を使って、因子分析を行い検証する必要がある。さらに、他の複数の小学生児童も含めて外国語活動嫌いを引き起こす要因をさらに検証しなければならない。

質的研究では、低位層と中位層の児童を対象にイ

ンタビューを実施したが、今後、外国語活動が好きな高位層をも含めた研究が必要であると考えている。

外国語活動嫌いの児童がいる限り、指導内容や指導方法の改善はもちろんのこと、彼らに適切なケアを施すことも想定できる。今回、質的研究で使用したインタビューの中で、児童たちの心情に寄り添いながらデータ入手することができた。データの入手を越え、外国語活動学習力ウンセリングが機能する可能性を得た。じっくりと外国語嫌いの児童にどのような要因がそうさせているのか探し、それを解消する方向性を児童とともに考え、実行することが

できればと考えている。

## 謝 辞

この研究の機会を与えてくださった（財）日本英語検定協会、選考委員の先生方、また、特にご指導をいただきました小池生夫先生に厚く御礼申し上げます。また、因子分析で統計学上のご指導をいただきました和歌山大学の菅千索先生に御礼申し上げます。さらに、本研究に際して勤務校の先生方や児童の方々に多大な協力をいただきました。この場をお借りして御礼を申し上げます。

## 参考文献（＊は引用文献）

- \* Brown, H.D. (2000). *Principle of Language Learning and Teaching*. 4th ed. NY : Person Education.
- \* 影浦功.(2007).『新しい時代の小学校英語指導の原則』。東京：明治図書。
- \* 國方太司.(2010).「児童を生き生き動かす環境づくりと指導技術」。樋口忠彦・大城賢・國方太司・高橋一幸編.『小学校英語教育の展開』。東京：研究社。
- \* 國本和恵.(2005).「小学4年生英語学習者の心理要因に関する研究」。『日本児童英語教育学会研究紀要』第24号 . pp.41-55.
- \* 國本和恵.(2006).「英語好感度が小学4・5年生の英語学習動機づけに及ぼす影響」。『日本児童英語教育学会研究紀要』第25号 . pp.75-87.
- \* 松宮奈賀子.(2005).「児童が不安を感じる英語活動場面とその要因の模索」。『日本児童英語教育学会研究紀要』第24号 . pp.57-69.
- \* 松宮奈賀子.(2006).「児童が好む活動に関する意識調査：不安の強さに焦点をあてて」。『日本児童英語教育学会研究紀要』第25号 . pp.89-106.
- \* 岡秀夫・金森強.(2007).『小学校英語教育の進め方』。東京：成美堂。

## 資料

### 資料1：質問紙での質問項目

- |                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| 1 英語は好きだ。               | 25 外国的朋友をつくりたい。      |
| 2 学校の英語の授業は好きだ。         | 26 英語以外の外国語も勉強したい。   |
| 3 学校の英語の授業は楽しい。         | 27 国語科は好きだ。          |
| 4 学校の英語の授業は大切だ。         | 28 社会科は好きだ。          |
| 5 学校の英語の授業は簡単だ。         | 29 理科は好きだ。           |
| 6 英語を聞くことは楽しい。          | 30 算数科は好きだ。          |
| 7 英語を聞くことは大切だ。          | 31 音楽科は好きだ。          |
| 8 英語を聞くことは簡単だ。          | 32 体育科は好きだ。          |
| 9 英語を話すことは楽しい。          | 33 図工科は好きだ。          |
| 10 英語を話すことは大切だ。         | 34 家庭科は好きだ。          |
| 11 英語を話すことは簡単だ。         | 35 去年の英語の授業と比べて楽しい。  |
| 12 英語を読むことは楽しい。         | 36 いつの日か、外国に行ってみたい。  |
| 13 英語を読むことは大切だ。         | 37 英語の授業は、将来に役立つと思う。 |
| 14 英語を読むことは簡単だ。         | 38 英語の授業は、もっと多い方がよい。 |
| 15 アルファベットを書くことは楽しい。    | 39 国語科の授業は好きだ。       |
| 16 アルファベットを書くことは大切だ。    | 40 社会科の授業は好きだ。       |
| 17 アルファベットを書くことはやってみたい。 | 41 理科の授業は好きだ。        |
| 18 アルファベットを書くことは簡単だ。    | 42 算数科の授業は好きだ。       |
| 19 英語を聞けるようになりたい。       | 43 音楽科の授業は好きだ。       |
| 20 英語を話せるようになりたい。       | 44 体育科の授業は好きだ。       |
| 21 英語を読めるようになりたい。       | 45 図工科の授業は好きだ。       |
| 22 英語を書けるようになりたい。       | 46 家庭科の授業は好きだ。       |
| 23 外国の人と英語で話すのは好きだ。     | 47 英語の成績も欲しい。        |
| 24 外国の人と英語で話すのは楽しい。     |                      |

### 資料2：インタビュー項目

- |   |
|---|
| 1. 外国語活動で楽しくない・嫌いと感じるのは、どんなときですか。また、その理由は何ですか。            |
| 2. 外国語活動で楽しい・好きだと感じるのは、どんなときですか。また、その理由は何ですか。             |
| 3. 外国語活動の授業で行う英語の歌をするのは好きですか嫌いですか。また、その理由は何ですか。           |
| 4. 外国語活動の授業で行うチャンツをするのは好きですか嫌いですか。また、その理由は何ですか。           |
| 5. 外国語活動の授業で行う英語のゲームをするのは好きですか嫌いですか。また、その理由は何ですか。         |
| 6. 外国語活動の授業で行う英語のクイズをするのは好きですか嫌いですか。また、その理由は何ですか。         |
| 7. 外国語活動の授業で行う英語のコミュニケーション活動をするのは好きですか嫌いですか。また、その理由は何ですか。 |
| 8. どのような外国語活動であれば、もっと好きになりますか。                            |
| 9. 外国語活動の授業中にはめられることはありますか。                               |
| 10. 外国語活動以外の授業中にはめられることはありますか。                            |
| 11. 授業ではめられることをどう思いますか。                                   |